

2014年

—国語— 第1回午前

(50分/100点満点)

注 意

- ①指示があるまで開いてはいけません。
- ②解答は、すべて「解答用紙」に記入してください。
- ③質問がある場合、鉛筆<sup>えんぴつ</sup>などを落とした場合、トイレに行きたくなった場合、気分が悪くなった場合は、  
だまって手をあげてください。
- ④ 、 。 「 」 “ ” はそれぞれ一字と考えなさい。

【一】 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

主人公の北斗は、春休みに自転車で冒険に出ることを計画している。以下は、冒険の内容を父さんに話す場面である。

パスワードを打ち込むと、北斗専用の隠しファイルが開いた。リビングのデスクトップは家族三人が使うパソコンなので、両親の目に触れないようにしておいたファイルだった。

「冒険の計画書だよ」

北斗が告げると、父さんは身を乗り出して画面をのぞき込んだ。

そこには北斗が考えている冒険についてまとめてあった。スケジュールは「出発・来年の三月(卒業式の次の日)」から始まって「春休みの間に帰ってくる」というところまで書いてあるし、予算表では出発前にかかる金額と出発後に使う金額が計算してある。「出発前」というのはマウンテンバイクに様々な荷物を積めるようにチューンナップするための改造費用や野宿のための道具を買う費用のことで、「出発後」にかかるのは一食三百円で計算した食事代や水道のないところで水分補給するために買う飲み物代だ。合計すると結構な額になる計算だったが、それくらいなら今までためた貯金や今度のお年玉を使えばなんとかなりそうだった。

知らない道を一人で進むから冒険なんだとは言ったけれど、おおまかなコースは決めてある。どこに行くのかも分からないのでは絶対に反対されるだろうから、ちゃんと目的地までの地図も添えておいた。東京を出発して目指すゴールは大阪で、まず一日目には神奈川県をつきつて静岡県の熱海まで走る。二日目にはなるべく険しくない道を選んで伊豆半島を越え、駿河湾沿いの道をぐるりと走る。三日目には愛知県に突入して、四日目には目指すのは滋賀県の琵琶湖だ。順調にいけば五日目には大阪に着くはずだった。

そんな計画書を、父さんは目を丸くして読んでいる。北斗はちよつと得意な気分で説明した。

「一日に走る距離はだいたい百キロくらいにしたんだ。八海ラリーを走ってみて、僕にもそれくらい走れるはずだって分かったから」

「……………」

「あんまり無理してもよくないから、平均速度二十キロくらいに抑えて走ることにした。それで休憩も入れながら、午前は三時間、午後三時間って感じで走れば、一日で百キロ以上走れるでしょ。五日か六日あれば大阪まで行けるんだ」

「そりやまあ、単純計算すりゃあそうなるけどな」父さんはAを掻いた。「そういう計算は実際やってみるとずれるもんだぞ。午前の三時間に比べたら午後三時間の方が疲れもたまってるし、初日と最終日を比べたら走れる距離だって短くなるんだ。だいたいお前、急な登坂で二十キロ出したり雨や風の中を一日六時間走ったりつてのがどんだだけ大変か分かってないだろう」

「分かってないのは、やったことないからだよ」北斗は言い返した。「だからやってみたいんだもん」

父さんは大変さが分からないからダメだと言いたいみたいだけど、北斗はその大変さだって味わってみたかった。大変すぎて失敗したっていい。とにかく走り出して冒険をしてみたいのだ。

「失敗したって冒険だよ。八海ラリーだって、リタイアしてもいいから走ってこいって言ってくれたじゃないか」

「……………」

さすがに父さんも言い返せなくなった。もともと北斗に八海ラリーを走らせたがったのだったって父さんなのだ。その時には心配する母さんを説得してくれた。

それに、北斗だって失敗したくて冒険するわけじゃない。長距離を走る大変さだって計算に入れて計画を立ててあった。

「五日か六日で大阪に着けないことだって考えといた」北斗はファイルの最初を指さした。「だからスケジュールには、往復で十日とか十二日って書かなかったんだ。春休みは半月近くあるんだから、どっかで予定が狂ったって何日か余裕はあるでしょ。最悪、自転車を持ってきたらいいんだし」

輪行バッグは前に買ってもらった物がある。八海ラリーのチェックポイントまで電車で行ったことがあって、手早く分解してパッキングする練習も積んだのだ。その袋を担いで電車に乗ることにすれば、帰り道は大阪から東京までの電車代だけ用意しておけばいい。その電車代だって、中学生になる前なら子供料金で済むのである。

「それに、コースを調べてみたら、一番の難所は伊豆半島を越えるところみたいなんだ。だから二日目を乗り切れるかどうかで走りされるか分かる。無理だと思ったら引き返すって約束するよ」

③これも事前に用意しておいたセリフだった。部屋を片づけるとか宿題を済ませるとか、両親から、何か約束させられることは多いけれど、北斗の方から約束するなんてBにしたことはない。意外性があるぶん、父さんを説得する効き目があるはずだった。

実際、父さんは驚いていた。だけどもちよつと意外すぎたのか、探るような目を向けてきた。

「なあ北斗」父さんは言った。「これ、お前一人で作ったのか？」

「……………」

北斗は黙ってうなずいた。<sup>④</sup>咄嗟に言葉が出てこなかったのだ。——パソコンに向かってファイルをまとめたのは北斗だけ、一人だけで作ったと言ったら嘘になる。

父さんにもそれは伝わったらしい。その口元に意味ありげな笑いが浮かんた。

「はあ、さてはブレーンがいるな」

北斗はそれには答えなかった。なんとか話を逸らそうと、これも前から考えていたことを口にした。

「父さん、宇宙って何キロ遠くにあるか知ってる？」

「宇宙？」

狙い通り、父さんはその質問に食いついた。根が単純な人なのだ。

「そんなもん、何キロ遠いとか言えないんじゃないか？ずーっと遠くまで広がってんだし、地球だって宇宙の一部なんだから」

「そりやそうだけど、そういう意味じゃなくて」北斗は窓の外の夜空を指さした。「地面からどれくらい離れたら宇宙に出るかってことだよ」

「そういうことか」父さんも夜空に目を向けた。「……よく飛行機なんかで、高度一万メートルとかいうよな。それで十キロだから、その何倍かで宇宙なんじゃないか？」

「惜しいけど不正解。正解は、上空百キロくらいからだってさ」

北斗は隠しファイルの中の地図の画像を指さした。父さんもようやく察しがついたらしい。<sup>⑤</sup>

「そうか。だからお前、一日に百キロ走ることにしたのか」

「ロケットがないから空に向かって飛ぶわけにはいかないけど、自転車だったら僕だって宇宙までの距離を走れるはずだよ」

物心ついた頃から、北斗という名前は北斗七星からとったのだと教わってきた。母さんがプラネタリウムで働いていることもあり、北斗は宇宙や星の話が大好きだった。星座や星の名前だったら学校の誰よりも詳しくて、先生にだって負けはしない。

父さんは昔、自転車で日本海を目指して道に迷ったことがあるらしい。夜の真っ暗な道を走る時、北斗七星を道しるべに方角を確かめて目指すゴールに辿り着けたというのだ。だから息子に北斗と名付けたと、懐かしそうに話してくれた。

その話が北斗の頭の中で膨らんで、自転車で宇宙を目指したいという思いに変わった。もちろん自転車じゃロケットみたいに飛ぶことはできないけれど、同じ距離を進むことだったらできる。自分の力で走っていけるのだ。

北斗はじつと父さんを見つめた。

「宇宙までの距離を、一日で走ってみたいんだよ」

「……分かった」

冒険を許可してくれたのかと思ったが、父さんはモニター画面に目を戻した。

「だから、初日は熱海まで走るってわけだな」

「うん。調べてみたら東京から熱海まででちょうど百キロくらいなんだ」

「だったら冒険だって熱海まででいいんじゃないか？」

父さんが笑った。今度はちよつと意地悪な笑い方だった。<sup>⑥</sup>

「熱海まで走れば宇宙まで行けたことになるんだったら、それで帰ってくりゃいいだろ。野宿して次の日まで走る必要はないじゃないか」

「だって……熱海まで日帰りっていったら二百キロでしょ。さすがにそれは無理かと思って、だから野宿するんだ。ほら、シュラフは前にキャンプに行った時のやつがあるし」

「だからエアマットだけ買うって書いてあるのか」父さんは予算表を見た。「でもお前、野宿ってのはそんな簡単なもんじゃないぞ。マットと寝袋だけあったって、テントがないじゃないか。雨と風はどうやって防ぐんだ？」

「それは……どっか屋根のあるところを探せばいいんだ。無人駅とかバス停とか、公園とか神社とか」

「お前、そんな知識どこから仕入れたんだ？」父さんは含み笑いをもらった。「まあでも、それにしたって一泊二日で東京・熱海間を走ればいいわけだよな。大阪まで行くことなさそうだよ」

不思議がつているような口ぶりは、北斗の心の中を探っているようでもあった。——さっきの話に戻って、北斗のブレーンは大阪に住んでいるんじゃないかと思っているのかもしれない。

何と答えようかと迷っていると、風呂場の扉が開く音がした。母さんが風呂から上がったらしい。父さんもそれに気づいた。そして声をひそめて告げてきた。

「よし、そんじやあ男同士の話はここまでだ。父さんもちよつと考えてみるから、この計画書はまだ隠しとけよ」

北斗は黙ってうなずいて、そのファイルを閉じた。父さんの声には北斗に味方してくれそうな響きがあつて、<sup>⑦</sup>どうやら期待できそうだった。

- \*デスクトップ……机の上で使用するパソコン。
- \*チューンナップ……手を加えて性能を良くすること。
- \*八海ラリー……北斗が以前参加した自転車の大会。
- \*リタイア……故障や事故のために途中<sup>とちゅう</sup>でやめること。
- \*輪行バッグ……分解した自転車を入れて持ち運ぶもの。
- \*パッキング……荷造り。
- \*ブレーン……助言をしてくれる人のこと。
- \*シュラフ……寝袋。

問一

A・Bにあてはまる語として適当なものを、身体の一部を表す漢字一字で答えなさい。

問二

①「ちよつと得意な気分の説明した」とありますが、この時の北斗の気持ちとして最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 北斗の計画書をうれしそうに見る父さんを見て、母さんもきつと賛成してくれるはずだと期待で胸がいつぱいになる気持ち。

イ 北斗の計画書に驚いている父さんを見て、このまま父さんを説得すれば、父さんがいっしょに冒険してくれるかもしれないと期待する気持ち。

ウ 北斗の計画書をうれしそうに見る父さんを見て、宇宙までの距離を自転車で走ってみたい気持ちが父さんに伝わったと期待する気持ち。

エ 北斗の計画書に驚いている父さんを見て、父さんも感心してしまう計画書を作ることができた自分をほこらしく思う気持ち。

オ 北斗の計画書をうれしそうに見る父さんを見て、日ごろは自分をほめてくれない父さんを見返すことができた満足する気持ち。

問三

②「さすがに父さんも言い返せなくなった」とありますが、その理由を二十五〜三十五字で説明しなさい。

問四

③「これも事前に用意しておいたセリフだった」とありますが、セリフを用意していた理由として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 父さんを説得するためには、冒険に反対する母さんが風呂に入っている短い時間に説得する必要があると思ったから。

イ 父さんは根が単純なので、興味を持つ話をすれば、簡単に冒険に賛成してくれるだろうと思ったから。

ウ 冒険の旅に反対しそうな父さんと母さんを説得するには、大変な思いをすればすぐにあきらめると、母さんに思わせれば良いと思ったから。

エ 事前にセリフを用意していることがわかれば、冒険の旅に反対する父さんも感心して納得<sup>なうとく</sup>してくれるだろうと思っただから。

オ 冒険の旅に反対すると思っていたので、日ごろあまりしていない約束をすれば、父さんが味方になってくれると思っただから。

問五

④「咄嗟に言葉が出てこなかったのだ」とありますが、言葉が出てこなかった理由を二十〜二十五字で説明しなさい。

問六

⑤「察しがついたらしい」とありますが、父さんはどのようなことを察したのですか、最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 北斗が母さんより先に自分を説得しようとした理由。

イ 北斗が急に冒険の旅に出たいと言いだした理由。

ウ 北斗が百キロという距離を走ることにごだわる理由。

エ 北斗が冒険の計画を自分に丁寧（ていねい）に説明する理由。

オ 北斗が冒険の旅の目的地を日本海にした理由。

問七

⑥「ちよつと意地悪な笑い方だった」とありますが、この時の父さんの心情として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 北斗の真意を本当はわかっているが、あえて聞くことで北斗を困らせてやりたいと思っている。

イ 北斗の冒険の目的地を大阪より近い熱海にすることで、旅の成功率を上げてやりたいと思っている。

ウ 北斗に熱海までの百キロでも子どもが走るのは無理だとわからせ、冒険をあきらめさせたいと思っている。

エ 北斗が熱海まで自転車で走りたい理由がわからず、腹いせに北斗を困らせてやりたいと思っている。

オ 北斗の冒険の目的地を大阪ではなく、自分が前に行った日本海にしてみたいと思っている。

問八

⑦「どうやら期待できそうだった」について、次の間に答えなさい。

(1) 北斗はどのようなことを期待していたのですか。十五〜二十五字で説明しなさい。

(2) 北斗は父さんのどのような様子から期待できると感じたのですか。三十五〜四十五字で説明しなさい。

【二】 次の文章を読んで、後の間に答えなさい。

落ち込（おちこ）んでいる友人、クヨクヨしている仲間がいたら、私たちは決まり文句のようにこう言います。

「気にしない、気にしない！」

あまり考え込まずに、いまのつらい気分をやりすごして、なるべく早く忘れること。それがいちばんのお悩（なや）み解決法だと、私たちはみな知っているのです。

でも、自分に対してはどうでしょう？ ① 自分の心にも、「気にしない、気にしない！」と声をかけ、それを実践（\*じっせん）している人は、

どれだけいるでしょうか？ おそらく、ほとんどいないのではないかと思います。自分の心が曇（くも）ったときは、「気にしない」どころか、ああでもない、こうでもないと考え込み、過去にまでさかのぼって原因を突き止（と）めようしたり、まったく関係のないことまで思い出しては目の前のことと関連づけて、一人で納得（なつとく）しようとしたり……。まるで自分だけは「気にしろ、気にしろ」と迫（せま）っているかのようです。

② それにしても私たちはいったい、いつから、こんなにも気にしやすくなったのでしょうか。

「上司に言われたあの一言、どういう意味だったのだろう？」

「彼女（かのじょ）からのメールが減（へ）ったような気がするけれど、どうして？」

「大学のゼミで、いちばん就活（\*しゅうかつ）で難航（なんかう）してるのは私じゃないかな？」

「コミュニケーションスキルを磨（みが）かないと、仕事についていけなくなるんじゃないか」

「外を歩いていると、ファッションセンスがないヤツ、ってみんなに見られているような気がする」

「とにかく、もつともつと頑張（\*がんば）らなければ」……。

こんな「気にしすぎ状態（おちい）」に陥（おちい）っている人に、診察室（しんさつしつ）ではもちろん、診察室の外でも毎日のように出会います。

それだけ人が思慮（しりょ）深く、繊細（せんさい）になっていくんだ——そう言ってしまうえば、たしかにそのとおりかもしれません。何があっても「ま、いいじゃないの、ガハハ！」と、むかしながらのオヤジっぽい豪快（ごうかい）な鈍感力（どんかんりき）を発揮（はつぱい）していた時代とは違（ちが）い、いまはだれもが洗練（せんれん）されるとともに、デリケートになっているのです。

そう考えれば、「気にしすぎ」も悪いことではないかもしれません。

しかし、他人には「気にしないです」と言いながら、自分では「気にしすぎる」人が、それで何か得をしているかといえ、とてもそうは思えません。

診察室であれこれ気にしすぎの人とつきあっていると、結局その心配は取り越し苦労だったとか、真実がどうだったのかよくわからないままうやむやになったとかいうことも、少なくありません。

それでも、何かを気にすること、それ自体がバネになって、現状を乗り越えるために頑張ればまだよいでしょう。でも実際には、人は気にしすぎ状態に陥ってしまうと、次から次へと気にすることで心がいっぱいになってしまっ

「よし、この機会に苦手なことを克服するぞ」といったモチベーションには、とてもつながらないことが多いのです。

まさに「気にしすぎ」は③、と言つてよいでしょう。

とはいえ、この「気にしない」ということが、きわめて難しいのです。

私は、ほかの人にくらべると、いろいろな場面で気にしないほうだと思うのですが、それでも「気にしすぎ」に陥って失敗したことはあります。

A、何年か前のこと。教育関係者の研修会で講師を頼まれて、一時間半ほどの講演をしたときです。「こんな話をしよう」と事前にテーマを決めていましたが、たまたま前日、そのテーマにぴったりのエピソードを出先で経験したのです。「じつは昨日……」と、経験したばかりの出来事をその講演の「枕」として話しました。

自分としては、「経験したばかりのホットな話ができたぞ」と満足しながら帰途に就きました。ところが、その翌週、講演に参加した方から一通の封書が届いたのです。そこには「まったく推敲されていない場当たり的な雑談に終始し、遠路はるばる出かけた意味がなかった」「いっしょに参加した知人たちも同様の感想だった」といった主旨の批判的な感想が綴られていたのです。

文章はていねいで表現はむしろ抑えぎみなことから、その人がただの誹謗中傷を書いてきたのではないことはよくわかります。「自分の胸にしまつておこうと思いましたが、どうしても言わずにはおられず」という静かな表現が、その方の怒りの大きさや失望の深さを思わせました。

「しまった。『枕』が長すぎて、前日にあったことをテキストに話したように見えてしまったんだ」

私は反省すると同時に、自分の構成力や表現力のなさをあらためて指摘されたような気がして、意外なほどショックが大きか

ったのです。

封書には名前がなく、だれが送ってきたのかわかりません。それでも私は、研修会的主催者に連絡して、「なんとかその人を見つけて、もっとくわしい話をうかがい、お詫びをしたいのですが」とお願いしました。「匿名なら難しいですよ」と言われても、「参加者が目にする会報か何かで呼びかけるとか……」と、思わず食い下がったのです。

主催者は何度も、「そんなに気になさらなくても」と慰めてくれたのですが、そう言われれば言われるほど、ますます気になってきます。そのうち、手紙の主はこんな人、と勝手な人物像までできあがり、私の講演を聴いてうんざりしているその方の顔まで思い浮かぶようになったのです。

B、送り主を特定することはできませんでした。

私には、もっと厄介な後遺症が現れはじめました。その後しばらくのあいだ、講演会に出かけると、聴衆のなかにその人がいるような気がして心臓がドキドキしたり、話に勢いをつけられなくなったりしたのです。そうすると、聴いている人たちはますます「なんだかつまらないぞ」と表情を曇らせ（ているような気がします。それを見て「この講演も失敗かも」と私はさらにオタオタ……。

④悪循環とはまさにこのことです。

私のこの情けない一例でもわかるように、「気になってどうしようもない」ケースのほとんどは、じつのところ「気にする必要がある」か「気にしても意味がない」ことで、むしろ「気にすること、さらなる事態の悪化を招く」のです。

そうなると、悩み多き私たちの人生をうまく生き抜くために必要なのは、「気にする原因がなくなるように、一つひとつ問題を解決していくこと」ではなくて、「最初から気にしないようにすること」なのではないでしょうか……。

そんないいかげんな、と呆れないで、ちよつとばかり、私がおすすめた「気にしない人生」の話を読んでみてください。ちなみに、先ほどの講演のことも、「もうこれ以上、気にしない！ あの手紙の主は、たまたまそう感じただけだったんだ」と自分に言い聞かせて、考えるのをやめました。⑤そうしないと、せっかく講演に来てくださるほかの人たちにまで被害を与えかねないかもしれませんからね。

「だれもが自分について、社会について、真剣に考えて行動しなければならぬこの厳しい時代に、気にしないですませるなんて、とんでもない！」

もちろん、そう感じる人もいるでしょう。

たしかに、「政治がいいかげんでも気にしない」というわけにはいきません。厳格にウオッチしたり、慎重に見守ったりすべきところは、しっかりとそうしなければなりません。そのことを否定するつもりはありません。

でも、むしろそのためにも、「テレビで話題の○○を早く手に入れなければ」とか「□□をマスターしなければ職場で取り残されるかも」とか、あるいは「あんなこと言っちゃって、どうしよう」とか、自分をとりまくさまざまな情報や出来事について、必要以上にあれこれと気にしすぎて、心のエネルギーを消耗してしまうのだけは避けなければならないと思うのです。

困難な時代だからこそ、それを乗りきるために、気にしない。気にしすぎない。

(香山リカ『気にしない技術』)

\*実践……実際に行うこと。

\*ゼミ……ゼミナールのこと。授業形式の一つで、少人数の学習グループで行う。

\*就活……就職活動のこと。

\*コミュニケーションスキル……考えていることや気持ちをお互いに伝え合うための技術。

\*思慮深く……深く考え、慎重に判断し行動すること。

\*洗練……磨きあげられてあかぬけし、品が身に付くこと。

\*モチベーション……目的を果たすための行動を起こす動機。

\*エピソード……ある物事に関係するちよつとした話。

\*枕……中心となる話の前置きとしてする短い話。

\*主旨……伝えたい中心となる内容。

\*誹謗中傷……事実とはちがう悪口を言って他人の名誉を傷つけること。

\*匿名……自分の氏名をかくすこと。

\*ウオッチ……どういうあり様なのか観察すること。

問一 A・B にあてはまる語として最も適当なものを次から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア すると イ ますます ウ たとえば エ かなり  
オ あるいは カ もちろん キ なぜなら ク まさか

問二 ①「自分の心にも、『気にしない、気にしない!』と声をかけ、それを実践している人は、どれだけいるでしょうか? おそらく、ほとんどの心にはないのではないかと思います」とありますが、気にしないことを実践している人がほとんどいないのはなぜですか。本文中の言葉を使って二十字以内で答えなさい。

問三 ②「それにしても私たちはいったい、いつから、こんなにも気にしやすくなったのでしょうか」とありますが、私たちがどんなことも気にしなかったのはいつのことですか。本文中から十五字で抜き出して答えなさい。

問四 ③ にあてはまる言葉として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 火に油を注ぐ イ のれんにうで押し ウ ふく水ぼんに返らず  
エ 百害あつて一利なし オ 立つ瀬がない カ 医者の不養生

問五 ④「悪循環とはまさにこのことです」とありますが、次の①～⑤は「悪循環」の順番をまとめたものです。

X・Y にあてはまることばとして最も適当なものを次から選び、それぞれ記号で答えなさい。

① 気にしなくてもよいように対して、気になってしかたがない。

② 気にしなくてもよいように対して、X

③ 気にしなくてもよいように対して、問題を解決しようと行動する。

④ 気にしなくてもよいように対して、Y

⑤ 気にしなくてもよいように対して、さらに気になってしかたがない。

問六

ア わかりやすい良いイメージを持つ。  
イ 失望して何も手につかない。  
ウ 悪い結果ばかりを想像し失敗する。  
エ 最初から気にしないようにする。  
オ すばらしい説明をできるようにする。  
カ 理由や原因を考えて反省する。

⑤ 「そうしないと、せっかく講演に来てくださるほかの人たちにまで被害を与えかねないかもしれませんからね」とありますが、筆者が気にする必要がない自分の失敗を気にしすぎると、筆者の講演を聴きに来た人がどのような被害を受けるのですか。二十字以内で答えなさい。

問七

本文の内容に合うものとして最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 現代人は思慮深く思っているわけだから、問題が起きたとき、無理に気にしないようにするのではなく、取り越し苦労しない程度に、思いをめぐらすのが健康的だ。  
イ 失敗してしまったのならまずは反省し、相手にあやまるのは当然だが、それを気にしすぎるくらいなら、いっそのことすべてを思い切って忘れてしまったほうがよい。  
ウ 気になって仕方がないことに対しては、逃げてばかりいても何も解決できないのだから、その一つひとつに真剣に向き合って、少しずつ消化していくべきである。  
エ 現在の社会では、他人を責めたり悪口を言ったりする人がたくさんいるので、その人たちの言動を常に意識し、何ごとに対してもよく考えて準備しなければならぬ。  
オ 自分をとりまく情報や出来事を気にしすぎると、心にゆとりがなくなってしまうと、何かに一生けんめい取り組む意欲が低下してしまうから注意しなければいけない。

【三】

次の各問に答えなさい。

問一

次の言葉の意味として最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

① 赤裸あかはだか

ア 何も知らないようす。  
イ とてもはずかしいようす。  
ウ 何も着ていないようす。  
エ かざりけのないようす。  
オ 真心を相手に見せるようす。

② 愛想あいそ笑い

ア 悲しい気持ちをかくして笑うこと。  
イ だれから見てもかわいく笑うこと。  
ウ まわりの人たちといっしょに笑うこと。  
エ 何かを思い出して一人で笑うこと。  
オ 相手に気に入られようとして笑うこと。

③ 荒れ模様

ア ものの配置が乱れているようす。  
イ 天候の状態が悪くなりそうなようす。  
ウ もやをわざとめちやくちやにおいたようす。  
エ 土地や建物が手入れされていないようす。  
オ 言葉や態度が乱暴になるようす。



④ 買いだし

- ア 市場や産地に行つて品物を買入れること。  
イ 仕入れたものを店先にきれいに並べること。  
ウ 足りなくなったものを買って補うこと。  
エ 自分の分だけでなく他人の分も買うこと。  
オ 商品を自分一人だけで買ってしまふこと。

⑤ 替え玉

- ア 現金と同じ価値を持つ品物。  
イ 使い切つた後のための予備の品。  
ウ 本人や本物の代わりに使うにせもの。  
エ 全く反対の意味を持つ考え方。  
オ あるものを守るためにひきかえにするもの。

問二

次の熟語について、上の□と下の□には同じ漢字一字が入ります。□にあてはまる漢字を答えなさい。

① □ 段 □

② 手 □ 手

③ 長 □ 長

④ 王 □ 王

⑤ 質 □ 質

問三

次の①～⑩の□のカタカナは漢字に、漢字はひらがなになおしなさい。

① □ ゴエイのために人を集める。

② □ ホガらかな話し方をする。

③ □ 駅前でショメイ運動を行う。

④ □ 試合の前にエイキを養う。

⑤ □ お世話になつた方にシャレイを渡す。

⑥ □ 奮つてご参加ください。

⑦ □ 初荷を積んだ船が出る。

⑧ □ 日の光を浴びて育つ。

⑨ □ 容姿の美しい人。

⑩ □ 宿題のしめきりを延ばす。

— 3 —

受 験 番 号

氏 名